

2022年4月のでがたんは少人数・申し込み制にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回5月のでがたんは5月14日(土)で、テーマは「たよって生きる つる植物」です。ぜひご参加ください。5月1日から電話での申し込みを開始いたします。市民スタッフのみなさま、次回の下見は5月7日(土)です。

4月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→親水広場→けやき広場→旧水生植物園
- 観察日時と天気：2022年4月9日(土) 10:00~11:00 晴れ
- 参加人数：10名(大人7名、中学生以下3名)
- 市民スタッフ：8名(北村章子、伊東茂子、石原直子、木村 稔、小泉伸夫、伴野茂樹、弘實さと子、湯瀬一栄)
- 博物館友の会 1名(古澤紀元) ●鳥博職員：1名(小田谷嘉弥)

観察した生き物の記録

「*」は、下見だけで見られたもの。

【鳥類】

キジ科：キジノカモ科：カルガモ、コガモノカイツブリ科：カイツブリノハト科：キジバトノウ科：カワウノサギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ、アカガシラサギノクイナ科：クイナ(声)、ヒクイナ(声)*、オオバンノタカ科：トビノチドリ科：コチドリノシギ科：タシギ*ノカワセミ科：カワセミノモズ科：モズノカラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラスノシジュウカラ科：シジュウカラ(声)ノツバメ科：ツバメノヒヨドリ科：ヒヨドリノウグイス科：ウグイスノムクドリ科：ムクドリノヒタキ科：アカハラ、ツグミノスズメ科：スズメノセキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ*ノアトリ科：カワラヒワノホオジロ科：ホオジロ、アオジ、オオジュリン
家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

【魚】

ゲンゴウロウブナ、ギンブナ、ハクレン(いずれも死体のみ)

【昆虫】

チョウ目：モンシロチョウ、キタキチョウ、ベニシジミ、ヤマトシジミノカメムシ目：ヨコヅナサシガメノコウチュウ目：コガタリハムシ、ナナホシテントウ、ナミテントウノバッタ目：クビキリギス(声)、キンヒバリ(声)ノハチ目：クマバチノハエ目：ハナアブの仲間

【貝】

マルタニシ

【花・実】

草の花 キク科：セイヨウタンポポ、ノゲシ、オニノゲシ、オオジシバリ、ノボロギク、ハルジオン、オニタビラコノナデシコ科：オランダミミナグサ、コハコベ、ツメクサノハエドクソウ科：ムラサキサギゴケ、トキワハゼノフウロソウ科：アメリカフウロノオオバコ科：タチイヌノフグリ、オオイヌノフグリノアブラナ科：ナズナ、タネツケバナ、ミチタネツケバナ、セイヨウカラシナノスミレ科：スミレノバラ科：ヘビイチゴノマメ科：カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、コメツブツメクサ、ムラサキツメクサノキンポウゲ科：タガラシノイグサ科：スズメノヤリノイネ科：スズメノテッポウ、スズメノカタビラノヒガンバナ科：ハナニラノカタバミ科：イモカタバミ、カタバミ、アカカタバミノシソ科：ホトケノザ、ヒメオドリコソウ

木の花 アケビ科：アケビノバラ科：サクラ、ユキヤナギノヤナギ科：シダレヤナギノモチノキ科：モチノキノモクレン科：コブシノレンブクソウ科：ニワトコノアオキ科：アオキ

4月の観察アルバム



今回のテーマは「キジも鳴かずに見られまい」でした。ほろうちの声と羽音を頼りにキジの雄を見つけ、じっくり観察することができました。この時期らしい鳥の行動や春の草花も観察できました。



今月の案内人
小田谷嘉弥・北村章子



① マテバシイの木に作られたハシブトガラスの巣



② 沼沿いの林に咲いていたアケビの花



③ 沼沿いの林に咲いていたモチノキの花



④ 目立つ場所に出てきたキジの雄



歩いたルートと観察した生き物



⑤ けやき広場の芝生に咲いていたムラサキサギゴケ



⑥ 水田で採食していたコチドリ



⑦ 水田で採食していたツグミ



⑧ あぜ道に落ちていたキジの尾羽

今月の鳥 キジ (キジ目キジ科)

キジは農地や草地などの開けた環境にすむ大型の鳥で、手賀沼周辺では一年中見られます。雄は光沢のある緑色の体や赤くふくらんだ顔の皮膚などの鮮やかな見た目をしていますが、雌は全身褐色で目立ちません。キジはほとんど渡りをしないため、繁殖期は春早くから始まります。手賀沼周辺では早い時は2月中から、「ケン、ケン」と鳴き、ブルルッと羽ばたき音を響かせる「ほろうち」と呼ばれる雄のディスプレイが見られます。ほろうちは6月ごろになると頻度が減り、7月ごろにはほとんど見られなくなります。手賀沼周辺では、3月から5月ごろがキジの姿を最も見やすい季節です。田んぼや畑が広がる開けた場所で探してみてください。



ほろうちをするキジの雄